

DOCUMENT EYE

147

法制化から2年、チャイルドシートの使用状況は?

平成12年4月の法制化から、チャイルドシートの安全性に対する認識はどう変化したか。JAF「チャイルドシート着用実態全国調査」(平成13年)によると、チャイルドシートの着用率は平成12年39・9%、平成13年44・7%と1年間で4・8ポイント上昇した。しかし、今年3月に(社)日本損害保険協会が発表した調査結果によると、「チャイルドシートは持っているが、場合によっては使わな

WHY

法制化から2年、チャイルドシートの使用状況は?

いこともめる。子どもがいるドライバーの約4割が答えている。また、使わないうのは移動距離が短いときや、自分と子ども以外に同乗者が乗車しているときといふこともわかった。

週末、都市開発が進む神奈川県の大規模商業施設付近で、チャイルドシートの使用を観察した。

WATCHING

幼児が使わずに荷物置き場と化したチャイルドシートも

観察場所は横浜市北部の港北ニュータ



観察地点 / 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央
地下鉄「センター南」駅付近
観察日 / 4月13日(土曜日)
天候 / 晴れ
観察時間 / 11:55 ~ 12:55
観察者 / 3名

法制化から2年、チャイルドシート使用の 幼児2337名中129名、使用率54・4%

チャイルドシート法制化から2年、使用状況を観察する



ウンの地下鉄「センター南」駅周辺。子ども用品や若者向けの衣料品や雑貨を中心とした大規模な商業施設があり、週末ともなるとクルマを利用しての買い物客が多く集まるエリアだ。そのほとんどが近距離の移動と思われるが、近接する他県ナンバーのクルマも多く見かけた。隣接する東名高速道路や第三京浜国道を利用している買い物客かと思われる。

観察は、6歳未満と思われる幼児を乗せたクルマについて、チャイルドシートの使用状況およびドライバーと同乗者のシートベルトの装着状況をみていく。

観察の結果、別表のように幼児を乗せていたクルマは、1時間に229台。チャイルドシート使用の対象となる幼児は合計で237名だった。このうちチャイルドシートを利用していたのは129名(54・4%)で、残りの108名(45・6%)はチャイルドシートを使用していなかった。

チャイルドシートの装着場所の多くは後部座席で、その隣には、幼児の世話をするとと思われる大人が同乗しているケースが目立った。



足を投げ出している子ども。

このほか助手席、後部座席問わず、乗車スペースがあるにも関わらず、大人がひざの上で幼児を抱いているケースが目立った。

PROPOSE

子どもの見本になるよう 後部座席の大人こそ シートベルトを使おう

観察の結果、チャイルドシートの使用率は54・4%で、観察場所や観察数こそ違つものの、法制化1年後に本紙が観察したときの利用率40・8%と比べると10

ポイント以上増加している。安全性に対する認識が高まっていると考えられる一方で、単にクルマに装着しているだけという認識の薄れもまだまだ気になる。注意したいのは後部座席の大人の多くがシートベルトを着用していないことだ。幼児はチャイルドシートを使用しているが、大人はシートベルトを着用していない。子どもは大人を見て育つ。子どもたちの成長に応じて、ジュニアシート、シートベルトの習慣が身につくように、大人がその手本を示してほしい。

また、今回の観察で、幼児をひざの上で抱く姿が目立った。ニコニコ顔の幼児と大人が印象に残ったが、事故の衝撃に大人の力では対応できない。子どものことを本気で大切に考えるのなら、チャイルドシート使用は当然のことと認識してほしい。

